



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2009

4月30日号

114
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

生涯教育



会長 片倉俊彦

「生涯教育」を辞書に聞くと「人が生涯にわたり学び・学習を続けていくこと」とある。放射線技師会が行う研修は果たして生涯教育なのだろうか。それは「否」である。患者さんに対し最適な診療結果を提供するという、放射線技師の職責を全うするためには、日常的に日進月歩の放射線技術の向上ならびに職業倫理の高揚に努めることは当然であり、研修は職責に伴う業務の一環であると考えからである。私達放射線技師が技師会で行う研修は趣味や自己啓発などではなく生業を保つ必須作業なのである。「それは技師会でなくとも自分でやればよいこと」という意見ももっともである。しかしながら、私達の職業は患者さん相手の医療行為であり、患者さんから信頼されることが大前提である。このためには第三者が見て明らかに分かる研修実績も一つの信頼となり得るのではないだろうか。職能団体である放射線技師会が卒後研修を企画する理由は2つである。一つは、放射線技師の技術向上と職業倫理の高揚によって直接的に患者さんにフィードバックすること。他の一つは、卒後研修の実績を客観的な記録として公にし、放射線技師の社会的な評価を高めることである。この二つの目的は大きな矛盾を含んでいる。何故なら、患者へのフィードバックは全ての技師に行うべきことであることから大多数が理解可能な研修が必要であり、社会的評価が高いと思われるのはハードな内容の研修となるからである。この二つの矛盾を適度なバランスで進めるには研修する会員の意見や感想が重要である。

ここで既存の研修システムを考えてみよう。

- ・数多くの会員が研修を受けやすい環境(近い、安い、多い)にあるだろうか。
- ・どんな時にでも会員の努力に応じた公正な評価が為されているだろうか。
- ・研修内容が会員の現状と乖離し、高い壁になっていないだろうか。
- ・また、会員の役に立つあるいは興味ある研修内容になっているだろうか。

この様なことを考えながら、福島県放射線技師会の卒後研修を評価していきたいところであるがこれらの評価は受講する会員にしかできない。御自身で良いシステムを作ることをお願いしたい。

また、日本放射線技師会も継続教育プログラムとしてeラーニングの運用を開始した。さらに、資格制度や臨床技術検定など改善を加えながら進めている。福島県放射線技師会の対面コミュニケーション研修と併用しながら実績のポイントを積み上げていただきたい。

平成20年度第5回理事会議事録(抄)

開催日：平成21年4月2日(木)14:00-17:20

場 所：県立医大放射線部カンファランス室

出席者：片倉会長、斎藤、鈴木副会長、馬場、吉田、
斎藤(重)、白川、八巻、富塚、佐藤、新里、
遊佐、古川理事、嶋田監事
事務局 伊藤、村上

議 長：斎藤副会長

議事録：県南支部(佐藤)

議 題

1、平成21年度(社)福島県放射線技師会総会資料の確認と修正

日時：平成21年5月16日(土)14:00～

平成21年5月17日(日)11:00

場所：福島市 飯坂温泉「あづま荘」

○特別講演

演題名「現在の医療状況」を「今後の医療動向について」に変更した。

講師：フジフィルム(株) 野口雄司先生

○総会次第、平成21年度表彰者名簿、学術奨励賞、事業報告、平成21年度事業計画(案)の確認と修正を行った。

○決算報告の説明が行われ内容を確認した。

○予算案の説明が行われ予算案を修正した。

○定款改定(案)を総会にかける

定款改定には2/3以上の賛成が必要なので欠席者は必ず委任状を送る。

○公益法人認可申請は総会の承認を経てから申請する。

○会員用総会資料は例年通りCD-Rで配布する。総会参加者用としては人数分印刷する。

2、事業の進捗状況

○財務より平成20年度最終会費未納者リストが提示された。

平成19年度からの未納者8名:2年未納の場合は除名扱いとなる。

4月末まで未納の場合は会員資格が喪失する旨の最終通知を発送する。

○公益法人認可申請に向けて前回理事会に続いて定款改定(案)の確認と修正を行った。

○(社)福島県放射線技師会報は4月末までに発送する。

3、その他

○今年度は県南支部他でパソコンなどの更新があった。総会資料には什器備品等の財産目録を載せて財産を会員に公表してはどうか
総会資料に財産目録を追加する。

○電離箱サーベイメータは4台保有している、県からの払い下げで財産目録には載せられないが、2年に1回更正に出している。今年度の電離箱サーベイメータ貸し出しは1件だけだったので次年度からは多数の利用を望む。

○ネットワーク委員会より平成21年度は会員への情報サービスとしてメールマガジンを含めたメール配信サービスを行う。

○平成21年度乳がん検診(マンモグラフィ)従事者講習会アンケートの結果について

4月1日現在38施設70名の希望があり平成21年10月を目途に精中委ならびに普及班との調整を図る。

以上

おしらせ

(社)福島県放射線技師会では電離箱サーベイメータの貸し出しを行っています。会員は無料です。漏洩線量測定に是非ご利用下さい。
申し込みは(社)福島県放射線技師会または各支部までお問い合わせ下さい。

訂正とお詫び

先に送りました平成21年度総会資料に掲載された、平成21年度(社)福島県放射線技師会永年勤続20年表彰者の名簿に誤りがありました。本会データベースの誤記載に気づかず次の四名の方に大変失礼を致しました。

穴沢 桂様、福田 和也様、小島 昭一様、平山 功様
お詫びして訂正いたします。

事務局長 伊藤 陸郎

平成21年度支部新役員

各支部の総会が終了し、平成21,22年度の支部役員が次のように決まりました、宜しくお祈りします。

会津支部

支 部 長：白川 義廣

副 支 部 長：山田 隆弘 渡部 育夫

会 計：星 剛志

会津支部役員：馬場 英二、星 剛志、佐竹 一博

星 寿郎、目黒 昭夫、松枝 直宏

足利 広行、工藤 靖之、森谷 辰裕

原田 博、鈴木 雅博、山下 朋廣

平塚 幸裕(順不同および敬称略)

県北支部

支 部 長：佐藤 靖芳 大原医療センター

副 支 部 長：佐藤 勝美 福島医大
 副 支 部 長：佐藤 二郎 保健衛生協会
 精 度 管 理：松井 大樹 北福島医療センター
 「 : 古川 徹 柊記念病院
 調 査：佐藤 久光 福島赤十字病院
 「 : 佐藤 孝広 社会保険二本松病院
 学 術：遠藤 浩 済生会福島総合病院
 「 : 佐藤 佳晴 公立藤田総合病院
 編 集 広 報：丹治 孝一 保健衛生協会
 「 : 池田 正光 福島医大
 ネットワーク：遊佐 雅徳 福島医大
 「 : 阿部 智 大原医療センター
 生 涯 教 育：佐藤 孝則 福島医大
 「 : 笹木 毅 公立藤田総合病院
 理 事：今野英麻呂 福島赤十字病院
 「 : 外山 慎 保健衛生協会

県南支部

支 部 長：佐藤 政春 町立三春病院
 副 支 部 長：渡辺 和夫 太田西ノ内病院
 菅野 和之 根本クリニック
 監 事：新里 昌一 太田西ノ内病院
 飯野 克郎 総合南東北病院
 星総合病院
 総 務 担 当：白石 嘉博 田村市立都路診療所
 財 務 担 当：菅野 修一 坪井病院
 県 副 会 長：斉藤 康雄 塙厚生病院
 学 術 担 当：幕田 節男 総合南東北病院
 本間 妙 公立岩瀬病院
 福田 和也 白河厚生総合病院
 田代 和広 太田西ノ内病院
 斉藤 由紀 坪井病院
 厚 生 担 当：濱端 孝彦 寿泉堂総合病院
 山口 大 星富久山病院
 鈴木 博文

浜通り支部

支 部 長：嶋田 峻二 南相馬市立総合病院
 副 支 部 長：栗田 祐治 公立相馬総合病院
 副 支 部 長：今野 広一 磐城共立病院
 監 事：堀江 常満 雲雀ヶ丘病院
 監 事：草野 義直 磐城共立病院
 理 事：古川 義一 かしま病院
 理 事：村上 薫 小野田病院
 理 事：船生 晴雄 松村総合病院
 理 事：菅原 正志 福島労災病院
 理 事：池田 昭文 渡辺病院
 理 事：鈴木 規芳 呉羽総合病院
 理 事：加藤 陽一 双葉厚生病院
 理 事：秋山 淳一 いわき泌尿器科病院
 理事 (会計)：花井 辰夫 南相馬市立総合病院



浜 通 支 部

**平成 21 年度浜通り支部総会及び学術発表会
開催される**

平成21年4月25日(土)富岡町リフレ富岡にて、福島県放射線技師会浜通り支部総会及び学術発表会が開催されました。はじめに、定例の学術発表が会員6名により行われました。また本総会において、執行部より平成20年度の事業及び決算報告、21年度の事業計画予算説明があり承認されました。また執行部改選が行われ、八巻昭一支部長が退任され、南相馬市立総合病院の嶋



田峻二支部長の新体制に移行し新役員が選任されました。

特別講演は、富士フィルムメディカル株式会社 小川博之先生より「デジタルマンモグラフィー入門」と題しa-Seの残像を抑制し、ワークフローの向上した直接変換方式を採用したFPD最新技術について聴講しました。

会終了後には、懇親会が行われ各施設の情報交換など話が盛り上がりました。

＜学術発表＞

「64列MDCTにおける頭頸部CTAの検討」

草野 雅人 南相馬市立総合病院

「当院における間接式FPDマンモグラフィの取り組み」

伊東 麻子 公立相馬総合病院

「ポータブル撮影時の散乱線測定」

猪狩 優 いわき市立総合磐城共立病院

「前立癌におけるMRI dynamic法の有用性の評価～S/N向上を目指して～」

秋山 淳一 いわき泌尿器科病院

「泌尿器科撮影の基礎」

高橋 豊和 いわき泌尿器科病院

「MAGNETON AVANT 1.5Tの使用経験」

比佐 賢一 福島労災病院

県 南 支 部

平成 21 年度県南支部総会開催される

4月22日(水)、PM6:30からピックアイ第一会議室を会場に県南支部総会が開催されました。開催に先立ち吉田会長より挨拶を頂きました。県南

支部では総会時に教育講演を計画するのが恒例になっていますが、今回は「放射線装置の届出様式と医療監視」の演題名で県中



保健所医療薬事課外島伸泰氏に依頼し、講演をして頂き

ました。外島氏は長年医療行政に携わっており、装置の更新及び廃棄時の手続き・立ち入り検査に関してポイントを押さえて分かりやすく解説して頂きました。中々携わる機会が無く、知識が不足になりがちな方面の話題ですが、これを期に関心を高めて頂ければと思います。講演後には会員から沢山の質問が出され、かなり予定時間をオーバーしてしまいましたが、有意義な時間を過ごす事が出来ました。引続き総会が開催され、議長に星総合病院の遠藤氏が選出され議事進行が行なわれました。平成20年度の事業及び決算報告、平成21年度の事業計画及び予算説明があり、いずれも満場一致で承認されました。また今年は役員改選の年にあたり、平成21・22年度新役員として以下の方々が選任され承認されました。なを依然役員不足が続いておりますので、会側からお問い合わせがあった場合には、技師会活性化の為にも力をお貸し頂ければと思います。(幕田)

県北支部

平成21年度県北支部総会開催される

去る平成21年4月10日、県北支部総会が福島テルサにおいて開催された。保健衛生協会の幡野勝久氏、福島医大の阿部郁明氏が議長に選出され、「会員数161名中、委任状を含む出席者が139名」との資格審査委員からの報告で本総会の有効宣言がされた。議事は大きな問題も出ず、淡々と進行し総会は無事終了した。

総会では齊藤重夫支部長より本年度も支部独自の勉強会を行っていく事や、市の「健康まつり」に参加していきたいとの事業計画案の発表がありこれからもご協力をお願いしたいとのお話があった。

また今回は役員改選が行われ、新支部長には大原医療センターの佐藤靖芳氏、副支部長には福島医大の佐藤勝美氏、保健衛生協会の佐藤二郎氏が選出され満場一致で承認された。

その後、懇親会が行われ今回も多く賛助会員の参加もあり和やかな雰囲気の中で遅くまで親睦が続いていた。今後も支部の活動をより活発化するために会員の皆様の積極的な参加を望みます。

「県北支部学術講演会」開催される

平成21年2月28日、福島テルサにおいて「県北支部学術講演会」が開催された。テーマは「胸部疾患について」と題し、福島県立医大放射線科の宮崎真先生にご講演をいただいた。CT、MRIなど各種画像モダリティの特徴を様々な症例を通してわかりやすく解説していただき、特に胸部CTについては、これからは「視覚的」だけではなく「客観的」な解析や造影法、また造影撮影の標準化の必要性があると述べられた。そして、



CTのスライス厚がどんどん薄くなっている中で画像の展開法や表示法がこれからの課題でもあると話された。「知って得するよく見る正常血管変異」についてのお話では、放射線画像診断医としての読影など普段ではあまり聞けない非常に興味深い講演であった。約1時間半の講演であったが時間を忘れるほどの充実した内容で「今後も支部の勉強会を定例的に開催してもらいたい」との多くの参加者の要望があった。(池田)

会津支部

平成21年度会津支部総会および研究発表会

平成21年4月25日(土)、今年度最初の会津支部事業として、会津支部総会および研究発表会が開催されました。

はじめに研究発表として、第一三共株式会社さんとバイエル薬品株式会社さんの2社から、最近のホットトピックを話題提供として講演していただきました。つぎに、施設紹介として、県立南会津病院さんと県保健衛生協会会津地区センターさんの2施設に、それぞれの施設の変遷や事業内容などのご紹介をしていただきました。自施設で業務をしていると他施設を知る機会もなかなか恵まれないので、非常によい機会でした。もう一つ竹田総合病院さんから、患者移乗方法の改善への取り組みという内容で発表があり、普段の業務の中でわれわれもさらに改善に取り組める点について発表していただきました。



研究発表に引き続き、会津支部総会が執り行われました。白川義廣支部長から、本年度も引き続き勉強会を開催していくことや、健康祭りなどの啓蒙活動への協力をお願いしたいとお話がありました。また、会津中央病院の小松一文氏が議長となり、本総会中はいろいろな質問や確認事項が飛び交い、積極的な意見が交わされました。議事中は特に大きな問題もなく、粛々と進行していき、無事終了となりました。

総会終了後、親睦を深めるべく情報交換会が設けられ、すごく和やかな雰囲気の中で楽しむことができました。今後とも会津支部を盛り上げて、さらに活性化させていくためにも、積極的な参加と研究発表があることを願うばかりです。(森谷)

編集後記

今期は、各支部とも役員改編の時期を迎え、気持ちも新たに各事業を実施していくこととなりますので、会員の皆様もご協力をよろしくお願いいたします。

世間では新型インフルエンザの国内発症を認め、県内にもいつ来るかもしれませんので、十分な注意と予防に気をつけていきましょう!(森谷)